



病院 HP

# しあわせおっぱい通信

岐阜県総合医療センター 中央検査部 Vol.60 2026年(ちょっとおそい)春号

## 今回のテーマは、『母乳とIgA』です

### IgA ってなに？

体内蛋白の一種である免疫グロブリン (=抗体) は、構造の違いにより G、A、M、E、D の5種類のクラスに分けられます。その中の A クラスを IgA (Immunoglobulin A: 免疫グロブリン A) と呼ばれています。血液中では、IgG (約80%)、IgA (10~13%)、IgM (約6%) の順に多く、IgE、IgD の量はごく僅かです。

### 母乳(初乳)に含まれる免疫物質について

分娩後数日間分泌される**初乳**は免疫物質を多く含み、免疫能の未熟な新生児の感染防御に重要な働きをしています。この初乳に含まれている免疫物質には、**IgA (分泌型 IgA)**、ラクトフェリン、リゾチーム、補体などがあります。

### 分泌型 IgA の特徴と働き

IgA は血液中に含まれるタイプ (血清型 IgA) と母乳、涙、唾液などに含まれるタイプ (分泌型 IgA) があります。お母さんの乳腺より分泌された**分泌型 IgA** を含む母乳を赤ちゃんが飲むことによって、赤ちゃんの気道や消化管の粘膜上に**分泌型 IgA** が分布します。**分泌型 IgA** は消化管などに存在する消化酵素によって分解されにくい構造となっています。この母乳によって獲得した分泌型 IgA の存在によって、外来異物が粘膜上皮に付着するのを防ぎます。これを**粘膜免疫**といいます。



あたたかくて安全なお母さんのおなかの中にいた赤ちゃんにとって、外の世界に出てみたら無数の細菌やウイルスなどの病原体にさらされてびっくり。しかもその患者をやっつける免疫グロブリンを自分で作ることもまだできません。でも大丈夫、母乳を介して渡されたお母さん特製の免疫グロブリンがきっと小さな生命を守ってくれます。

